

「一般質問」に登壇!

令和2年第7回定例会(11月定例会)において、通算7回目の一般質問に登壇いたしました。

質問内容は次の通りです。

市長の政治姿勢について

【質問】(1)核兵器禁止条約の署名・批准要請

本年10月24日に核兵器禁止条約の批准に必要な国・地域が50ヶ国に達し、それから90日後の来年1月22日に発効される見通しと

なった。

田上市長は、11月20日に外務省や国会議員、各政党などを訪問し、「核兵器禁止条約の署名・批准を求めるとともに、それまでは発効後1年以内に開催される締約国会議にオブザーバーとして参加されることなどの要望」を行ってきたが、その要請にあたっての成果またはどのような反応であった。

《回答》

要請に対し、政府からは従来どおり慎重な姿勢が示されたが、与党の自民党から「まずは党内の外交部門で議論を行うよう提案したい」という一歩踏み込んだ回答を得るとともに、私が訪問した公明党や立憲民主党をはじめ、各政党からも前向きな見解が示され、国会議員の皆様の条約への関心の高さや熱意に確かな手応えを感じた。

要請後の衆議院予算委員会及び参議院本会議において、相次いで核兵器禁止条約に関する質問が行われており、国会での議論を通して、議論が深まること、また、その様子を多くの人が見ることによって条約を知り、その意義について理解が深まることも期待している。

核兵器禁止条約は、被爆者と被爆地の長年の願いが形となった条約で、今後、条約批准国や国際機関、NGOなど平和を希求する全ての人々と連帯しながら、諦めることなく、粘り強く取り組んでいく。

【質問】(2)次期アメリカ大統領の長崎訪問要請

先月、アメリカ大統領選挙が行われ、次期大統領にジョー・バイデ

ン氏の就任が確実となった。バイデン氏は、オバマ元大統領の意思を継ぎ「広島と長崎の恐怖が二度と繰り返されないように、核兵器のない世界に近づこうよう努力する」と表明されている。

市長は、このことを歓迎しバイデン氏には是非被爆地長崎を訪問していただきたいとコメントされている。また、次期アメリカ大統領の被爆地訪問を後押ししていただくよう併せて外務省に要請したことにも報じられている。市長の意気込み、決意は。

《回答》

バイデン氏にも、是非被爆地を訪問していただき、原子雲の下で何が起ったのかを、ご自身の目で見て、被爆者の思いに耳を傾け、心で感じていただきたいと思えます。そして、長崎を最後の被爆地とするために、ここ長崎から核兵器廃絶への揺るぎない決意を世界に向け発信していただきたいと思う。

バイデン氏が被爆地を訪問することで、再び、核兵器廃絶への国際的な機運を盛り上げることに繋がるものと確信している。現職のアメリカ大統領の被爆地訪問は非常に意義深いことですので、適切な時期に在日米大使館を訪問し要請を行うとともに、様々な機会を捉え、被爆地訪問の実現に向け取り組んでいく。

防災対策について

【質問】(1)地域センターの自家発電整備

超大型台風10号に伴い、強風の

影響を受け市内各地域で停電が発生した。長いところでは3日間ほど停電が続いた地域もあったようです。停電の地域にある、一部の地域センターも停電となり、停電の影響で電話が不通となり、また日常業務もストップするなど、地域住民に対する行政サービスに大きな影響が生じたとも聞いている。現在20ある地域センターで停電などに備えるため、自家発電が整備されていない地域センターはいくつあるのか。

また、自家発電が整備をされていない地域センターに、今後、整備し緊急事態に備える考えはないか。

《回答》

現在の地域センターの非常用発電設備は、20か所のうち15か所において施設に自家発電設備を設置している。非常用発電設備を設置していない5つの地域センターについては、停電の際、持ち運び可能な発電機により対応することとしている。今後の対応としては、停電の際に最低限必要な電力量を精査したうえで、その電力を確保する有効な手段について検討していきたいと考えている。

超高速インターネット環境整備の進捗状況について

【質問】

9月議会において、国の補助事業を活用し、未整備地区の解消のために超高速インターネット環境整備費が計上され可決した。未整備地区の住民の皆様にとってはや



つと整備されることに大変喜んで
いる。整備完了が令和3年度末ま
でに完了することが条件となっ
ていることから、あと、1年3か月し
かない状況です。現在の整備に向
けた進捗状況はどのようになって
いるのか。

《回答》

9月にNTT西日本が国の令和2年
度第2次補正予算に基づく高度無線環
境整備推進事業に対し申請を行い、現
在、同社が国からの内示を待っている
状況。今後のスケジュールについては、
NTT西日本が国から交付決定を受け
た後、長崎市の補助事業への申請を行
い、市の交付決定後に同社が整備工事
を開始し、国の補助事業の期限である
令和4年3月末までに整備完了を予定
している。

サービス開始については、全ての地
区で整備が完了した令和4年4月から
開始することとなっている。また、開始
の1か月前には事前申し込みを開始す
るとのこと。

周知については、NTT西日本が行
うが、長崎市としても広報がさきや
地域センターだよりなどを活用し効率
的な周知に取り組んでいく。

高齢者交通費助成制度に ICカード

【質問】

令和3年度からバス・電車に限
り、差額運賃のための小銭を用意
したり、両替の際の危険性や不便
な点を解消するため、市内交通事
業者が発行するICカードに変更

し、交通費助成方法を変更するこ
ととなっている。市内各地でも説
明会を行ってきたと思うが、各地
域で開催した説明会において、参
加者からどのような意見・要望が
出されたのか、また、これまでに、
ICカードの登録者数は何件ぐら
いになっているのか。

《回答》

全ての対象者に、新たな助成方法の
お知らせとICカードの事前登録申込
書を送付した。9月・10月には市内61か
所で地域説明会を実施し、約5千人に
参加していただいた。会場で事前登録
を申し込む方も多く、乗り降りが便利
になる、乗り換えや支払い時の余分な
利用券使用など無駄がなくなるといっ
たお声をいただくなど、概ね理解いた
だくことができた。一方、電子マネーへ
の交換方法が分かりにくい、初めから
助成金をカードに入れてほしいといっ
た意見もあった。

また、ICカードの事前登録の状況
は、対象者見込み3万7千人の約6割、
2万3千人超となっている。

今後、地域の老人クラブや高齢者ふ
れあいサロン等に職員が出向いて丁寧
な説明に努め、広報がさきや週刊あ
じさいなどあらゆる広報媒体を活用
し、十分な周知とわかりやすい説明に
努める。

骨髄ドナー助成制度に ICカード

【質問】

長崎県が来年度から支援制度の
運用を目指し、県内各市町などに

協力を呼び掛けているとの報道が
あった。県の方から骨髄ドナー支
援制度の創設に対し、市に協力要
請があったのか。また、市として県
に協力し支援制度を創設する考え
があるのか。

《回答》

長崎県において、県と市町が一体と
なった制度導入を目指し、県内市町が
実施する支援事業に助成することを検
討していると聞いている。

長崎市としても、ドナーへの支援の
必要性を認識しており、長崎県の助成
を活用した骨髄ドナー支援制度につ
いて検討していきたい。

市道大野牧野線(神浦夏井 町〜上大野町間)の整備に ついて

【質問】

本年7月の豪雨により、国道20
2号線が2ヶ所崩落し、一時的に通
行不可能な状態になった。また、迂
回できる道路として、林道西彼杵半
島線が整備されていますが、この林
道も豪雨災害を受け通行止めの方
置がとられ、通行できない状況とな
った。そこで、市道大野牧野線を利用
する方々が集中し、大渋滞が発生
した。今後も大雨等の災害で国道2
02号線が通行できなくなることも
予想されるため、市道大野牧野線
(神浦夏井町から上大野町間)の拡
幅を行い、問題の解決に向け取り組
む考えはあるか。

《回答》
国道202号線の被災に伴う渋滞回
避に市道大野牧野線を迂回路として利
用する車両の増加については、長崎市
も認識しており、何らかの対策を講じ
る必要があるとも考えている。

また、当該路線についても、重要な迂
回路の一つと考えており、早急な対応
が必要とも考えている。現在、現地調査
を実施し、早急に対応可能な対策の実
施に向けて地元自治会等と協議をしな
がら進めているところであり、具体的
には渋滞緩和策として、樹木の剪定や
定期的な草刈り、離合対策として応急
的な離合場所の確保、側溝を利用した
幅員確保などについて検討している。

この路線を対象とした中長期的な計
画として、特に道幅の狭い場所を中心
に整備を進めているところで、今後も
計画的に事業を進めていきたい。



市道大野牧野線